

1 研究主題

「わかる・できる喜び」を味わわせる授業の創造 - 基礎的・基本的内容の定着と生徒が進んで発表や活動する指導の在り方の研究 -
---

2 研究主題設定の理由

本校では、平成15年度から「生きる力」の育成を目指し、特に「確かな学力」の要素について焦点を絞り、各教科や総合的な学習の時間の指導計画や評価の在り方を中心に研究を進めてきた。その際、基礎的・基本的な内容の確実な定着を目指した「授業の充実」を図ることにより、生徒が積極的に学習に取り組み、基礎的・基本的事項を身につけるとともに、「わかる・できる喜び」を味わうことによって、自ら進んで学ぶ態度や課題を解決する能力を育成できるのではないかと考えた。

3 研修の全体構想

学校教育目標	「生命に深くこだまする明和中の生徒を育てる」 - 国際社会に生きる日本人としての自覚をもち、心身ともに健康で、 社会性や創造性に富み、主体的に生きていく心豊かな生徒を育てる。 -
--------	---



重点課題	(1) 心の教育の充実                      (2) <u>確かな学力の育成</u> (3) 生徒指導の充実                      (4) 特色ある学校づくりの推進
------	---



研究主題に関する研修	生徒の実態の把握と全校態勢の確立 ・ 学力向上推進委員会の充実 ・ 各種評価の実施と分析・改善策の検討（学力，学習状況，意識，生活実態） 授業の充実 ・ 基礎的・基本的な内容の確実な定着（目標の明確化，定着の場の設定，宅習課題の工夫） ・ 自ら課題を見い出し，解決する授業の充実（指導過程の工夫，発表や活動の場の設定） ・ 研究授業の計画的実施（外部講師の招へい） 学業指導の充実 ・ 授業の基本的な躰の定着 ・ 家庭学習の習慣化の推進 ・ 学び方の指導の充実（教科の学習の仕方，テスト勉強の仕方，学び方タイム） 個に応じた指導の充実 ・ 少人数指導・習熟の程度に応じた指導・T T指導の充実，選択教科の指導の充実 ・ 学業相談の充実，授業外の個別指導の充実 ・ 生徒の特性に応じた特別支援教育の実践と事例研究									
一般的な研修	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 33%;">生徒指導に関する研修</td> <td style="width: 33%;">特別支援教育に関する研修</td> <td style="width: 33%;">人権同和教育に関する研修</td> </tr> <tr> <td>教育相談に関する研修</td> <td>健康教育に関する研修</td> <td>学級経営に関する研修</td> </tr> <tr> <td>教育評価に関する研修</td> <td>教育課程に関する研修</td> <td>総合的な学習の時間に関する研修</td> </tr> </table>	生徒指導に関する研修	特別支援教育に関する研修	人権同和教育に関する研修	教育相談に関する研修	健康教育に関する研修	学級経営に関する研修	教育評価に関する研修	教育課程に関する研修	総合的な学習の時間に関する研修
生徒指導に関する研修	特別支援教育に関する研修	人権同和教育に関する研修								
教育相談に関する研修	健康教育に関する研修	学級経営に関する研修								
教育評価に関する研修	教育課程に関する研修	総合的な学習の時間に関する研修								

#### 4 今年度の校内研修

月	日	曜	研修内容	外部講師の招へい	担当係
4	18	月	研究テーマ及び年間計画		研修係
5	12	金	生徒指導についての共通理解		生徒指導主任
6	8	火	小・中連携部会		研修係
7	21	木	カウンセリングについて		生徒指導主任
	24	月	学級経営（事例研修）について		特別活動係
			学力向上について （学力向上委員会報告，NRTの分析方法の提示，学力向上取り組みの事例）		学力向上推進委員会 諸検査係
	31	月	健康教育		保健指導係
救命救急講習（AED）				安全指導係	
8	1	火	生徒指導について		生徒指導主任
			特別支援教育（事例研修）について		特別支援教育係
	2	水	不登校への対応（事例研修）について		生徒指導係
			キャリア教育について		進路指導主任
	21	月	NRTの分析結果と改善策の発表		諸検査係，各教科
			接遇の在り方について		研修係
	29	火	人権同和教育について		人権同和教育係
30	水	2学期の学力向上についての取り組み		学力向上推進委員会	
10	10	火	道徳（研究授業を通して）		1年部，研修係
1	15	月	教科（研究授業を通して）		理科部
	22	月	教科（研究授業を通して）		2年部，研修係
2	5	月	本年度の研修の成果と課題		研修係

#### 5 研究主題に関する実践

##### (1) 生徒の実態の把握と全校態勢の確立

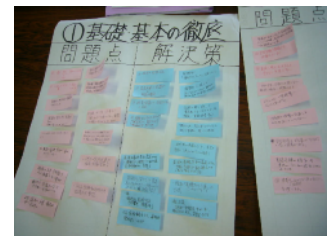
##### ア 学力向上推進委員会の充実

- ・ 開催日 毎週金曜日の2校時に設定
- ・ 構成 校長，教頭，学年主任，学業指導係，教科代表 計7名
- ・ 内容 学力に関する現状と課題・解決策の協議，実践化

##### に向けての具体策の検討

- ・ 学力の実態分析について
- ・ 家庭学習に関するアンケート分析
- ・ 学び方タイムの進め方について
- ・ 各教科・学年の取り組み事例の検討
- ・ 共通実践事項について 等

- 【成果】
- ・ 様々な立場からの意見をもとに課題を明らかにし，実践への方向付ができた。
  - ・ 学力に関する情報提供をすることで，学力向上に対する職員の意識も高まった。
  - ・ 事前に打ち合わせをすることによって，会の内容が充実していた。



課題と解決策の協議

## イ 各種評価の実施と分析・改善策の検討

基礎基本定着度調査の分析と各教科の具体策の検討（4月）

標準学力検査(NRT)の分析の仕方についての研修の実施（8月）

昨年度の研修で学んだNRTの分析の手法を生かし、各教科の分析方法を提案した。

標準学力検査(NRT)の分析と具体策の検討（8月下旬）

NRTの分析を基に、2学期からの学習指導に対する具体的な取り組みを各教科や学年毎に話し合った。

## (2) 授業の充実

### ア 基礎的・基本的な内容の確実な定着

各教科で学習目標を明確化したり、学習過程に定着の場を位置付けたり、宅習課題の出し方について共通理解し実践化を図ったりしている。

### イ 生徒が自ら課題を見出し、解決する授業の充実

各教科で指導過程を工夫したり、発表や活動の場を設定したりしている。

### ウ 研究授業の計画的実施

全職員による研修を推進するために、研究授業の日は5時間授業で生徒は下校させ、6校時に研究授業を設定し、放課後授業研究をした。

道徳研究授業（1年）・・・10月10日実施

ア 主題名「崇高な生き方」 資料名「敗れざる者」  
（朝日新聞社説を利用）

#### イ 指導目標

- 人間には弱さや醜さを克服する強さや気高さがあることを信じて、人間として生きることの喜びを見いだすように努める。



### 経験者研修の充実

10年経験者研修3名の研究授業に指導者を招へい(6回)し、個別指導をして頂くことにより、授業の改善・充実を図った。

【成果】 授業者や担当教科の職員だけでなく、他教科の職員も参観することができ、より一層深まった授業研究ができた。また、指導者を招へいすることによって、研究の質が高まった。



10年経験者研修・保健体育

## (3) 学業指導の充実

### ア 授業の基本的な躰の定着

年度始めに、授業中の基本的な約束について共通理解を図り、実践に取り組んだ。

学力向上推進委員会で、まずは小さな共通実践が学力を高める第一歩であると考え、授業の始まりや終わりの行動の在り方について再確認等をし、共通理解・共通実践を図っている。

### イ 家庭学習の習慣化の推進

毎日の家庭学習の目標（1・2年 2時間、3年 3時間）

3点セット、4点セットの提出（生活の記録、英語の宅習、漢字練習）

ウ 学び方の指導の充実（教科学習の仕方，テスト勉強の仕方，学び方タイム）

「学び方タイム」（年間4回）の設定と充実

定期テストの前の総合的な学習の時間（4時間）に，学業指導の時間「学び方タイム」を設定した。

- ・ 第1回（6月） 家庭学習の仕方を学ぶ
- ・ 第2回（10月） 調べ学習の仕方を学ぶ
- ・ 第3回（11月） 苦手教科の勉強方法を学ぶ
- ・ 第4回（2月） 自分なりの学習計画を立てる（予定）



学び方タイム・10月

< 第3回学び方タイム指導例・1年 >

(1) ねらい

今までの家庭学習を振り返り，問題点を探りよりよい家庭学習の仕方を考えさせる。

(2) 期日

平成18年11月9日（木） 1校時 （総合的な学習の時間）

(3) 活動内容

時間	学び方タイムの流れ	指導上の留意点
2	1 目標を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">今までの家庭学習を振り返り，よりよい家庭学習の仕方を学ぼう。</div>	
8	2 チェック表を配り，今までの家庭学習を自己評価する。	チェック表に記入し，数名の生徒に発表させる。
10	3 グループ毎に，家庭学習をする上で困っていることを出し合い，解決方法を話し合う。	ワークシートを配る。 グループ毎に生活習慣や学習方法での問題点をそれぞれが出し合い，お互いに解決方法や工夫できる点について話し合いをさせる。 机間指導によるアドバイスを行う。
5	4 グループ毎に発表する。	それぞれの発表の良い点は賞賛し，改善することはアドバイスをする。
15	5 家庭学習の必要性や望ましいやり方を考える。	いい勉強の仕方をしている生徒のノートのコピーを紹介したり，資料や学習のてびきを見て考えさせる。
10	6 今後の家庭学習で気をつけたいことや工夫したいことを考え，ワークシートに記入する。	前回学習したことや，家庭学習のあり方をふまえ，自分で取り組みたいことを考えさせる。
	7 自己評価記入，次時の予告	

【成果】 「学び方タイム」では，人の記憶のメカニズム等についても指導し，自分にあった効果的な学習の仕方について考えさせることができた。また，家庭学習の仕方やテスト計画の立て方等を具体的に指導し，実践化を図ることができた。

#### (4) 個に応じた指導の充実

##### ア 少人数指導，ＴＴ指導の充実，選択教科の指導の充実

習熟度の程度に応じた指導(2・3年 数学)

全時間2クラスを3コースに分け，3人の教師でそれぞれ指導

- ・ 2年 基礎基本コース(1コース)，総合コース(2コース)
- ・ 3年 基礎基本コース(1コース)，総合コース(1コース)，演習コース(1コース)

##### 《コースの決め方》

生徒・保護者の希望をもとに決定するが，必要に応じて担当教師も相談を行う。途中でコースを替わることもできる。

少人数指導(1・2・3年 英語)

2クラスを均等に3コースに分け，3人の教師がそれぞれ年間を通して指導

ＴＴ(ティームティーチング)

理科	実験を中心に実施	1年	各学級週2回
		2年	各学級週1回
		3年	各学級週2回



数学の授業



英語の授業

- 【成果】
- ・ 習熟の程度に応じた指導，少人数指導等を実施し，個に応じたきめ細かな指導ができるようになった。
  - ・ 生徒の習熟の程度に応じた指導を実施し，生徒の学習に対する意欲も深まり，真剣に取り組む生徒が増えた。
  - ・ 理解不足の生徒に対して，時間をかけて指導でき，授業への集中力や意欲が増してきた。
  - ・ 理解の早い生徒やコースは，応用的な問題にも取り組ませた。
  - ・ 少人数による指導で，発表や活動の機会が増え，生徒が学習に意欲的に取り組み，集中するようになった。
  - ・ ＴＴは授業を二人の教師で指導するので，机間指導や実験等でのきめ細かな指導ができるようになった。

##### イ 選択教科の充実

- ・ 1年 5コース(国・社・数・理・英)開設，年間18時間実施，1教科選択
- ・ 2年 11コース(国・社・数・理・英，音・美・体2・家・技)開設  
週2コマ 年間68時間実施  
国・社・数・理・英から1教科選択  
音・美・体(2コース)・家・技から1教科選択
- ・ 3年 22コース(国2・社2・数2・理2・英2，音2・美2・体4・家2・技2)開設  
週4コマ 年間135時間実施  
国・社・数・理・英から1教科選択×2コマ  
音・美・体(2コース)・家・技から1教科選択×2コマ

##### ウ 学業相談の充実

- ・ 学び方タイムでの個別相談の実施
- ・ 定期的な教育相談の実施 1学期(5時間)，2学期(5時間)
- ・ 数学科の習熟の程度に応じた指導のコース選択や選択教科のコース選択等においては，随時相談

を実施

エ 授業時間外の個別指導の充実

- ・ 始業前，昼休み，放課後等に随時個別の指導に当たっている。
- ・ 学年で期間を決めて，放課後に定着の不十分な生徒の指導を分担して行っている。

オ 生徒の特性に応じた特別支援教育の研究・実践

- ・ 8月の校内研修で，外部講師を招いて，特別支援教育に関する研修を実施した。
- ・ 別室登校の生徒の指導を空き時間職員を割り当て，分担して指導を行っている。
- ・ 対象生徒の特定や指導の在り方について，更に研修を深める必要がある。

(5) 授業についての教師の自己評価と生徒のアンケート，外部のアンケートの実施

- ・ 教師の授業改善と生徒の学習への取り組みの改善を図るために，全職員の自己評価，全学級のアンケート，各教師1クラスのアンケートを毎学期実施している。また，PTA役員，学校評議員によるアンケートも年1回実施している。教師が自分の授業の改善の視点を得る上で有効である。

(6) その他

ア 全校朝読書の実施

- ・ 月・火・木・金曜日の8時15分～8時35分に，自分の興味・関心のある本を選び，全校一斉に読書している。

イ 読書活動の実施

- ・ 1学期と2学期の教育相談の時間に面談する生徒以外は，明和中学校99選の文芸作品等から自分の興味・関心のある本を選び，読書している。
- ・ 文芸を親しむ活動（総合的な学習の時間）で，全校一斉に名作のテープを聴かせ，感想を書かせている。

【成果】

- ・ 朝読書では，無言で読書をすることにより，落ち着いた雰囲気の中で一日がスタートできている。
- ・ 読書活動では，文芸作品を読むことで，文の豊かな表現力を学び，読解力の向上を図ることができた。

6 今後の課題

生徒が自ら取り組み，活気のある授業への工夫が必要である。

学力向上推進委員会の更なる機能化を図るために，内容や運営の工夫が必要である。

職員研修の時だけの話し合いで終わらないようにするために，教科や学年，係会等で具体化への話し合いをし，共通理解事項が組織的に実践できるようにしたい。

特に教科部会の充実を図り，指導内容や指導方法等について深く研究し，お互いの授業力を高める取り組みを推進したい。

評価後の分析と手立てを工夫することによって，評価と指導の一体化を図りながら，基礎・基本の定着や生徒自ら課題に取り組みさせるために，日々の授業の更なる充実を図っていきたい。

教師・生徒を対象に実施した授業に関する評価やNRTの分析の結果，定期テストの結果を真摯に受け止め，生徒が積極的に授業へ取り組めるような指導の改善・工夫をしていきたい。